

心肺の方式手術中変更

東京女子医大 佐藤容疑者 チームに伝えず

東京女子医科大病院の心臓手術ミスで平柳明香さん(当時12)が死亡した事故で、業務上過失致死容疑で逮捕された医師が、人工心肺の方式を手術の途中で別の方式に切

り替え、これを手術チームのほかの医師らに知らせていなかったことがわかった。(3面に「時時刻刻」、39面に関係記事)

警視庁は、証拠隠滅容疑で逮捕された瀬尾和宏容疑者(46)を責任者とするチーム内で、人工心肺の方式変更が周知徹底されていなかったため、容体の急変に対応できなかったとみて調べている。捜査1課の調べでは、

明香さんの心臓手術は昨年3月2日午前9時に始まった。佐藤医師は午前11時50分ごろ、人工心肺装置を起動させた。血液を貯蔵する容器と心臓の高低差を利用して体から血液を抜く「落差脱血法(落差法)」という方式

を用いていた。

血液の抜けが良くなかったため佐藤医師は、装置内の圧力を下げて血液を抜きやすくする「陰圧吸引補助脱血法(陰圧法)」に切り替えた。ところが装置の切り替えを瀬尾医師らほか5人の医師に知らせなかった。

調べに対し、佐藤医師は「陰圧法に切り替えたことは、瀬尾医師もわかっていると思う」と述べていると供述しているという。装置内の圧力が上がり血液を吸引できなくなりましたが、佐藤医師は空気弁を開放して圧力を下げるなどの回避措置すら取れなかったとされる。

「落差法」を用いていると認識していた瀬尾医師らも混乱し、適切な対応ができなかった。

女子医大小児心臓手術事故
佐藤医師人工心肺操作変更
2002年6月29日 朝日新聞

瀬尾医師は逮捕前の朝日新聞の取材に対し、「当直医を通じて落差法を指示しており、佐藤医師にも伝わっていると思っていた。手術の最後まで落差法を行っていると思っていた」と説明していた。